



関西支部 2/13 「第104回醗酵学懇話会」報告

底冷えの残る2014年2月13日、辰馬本家酒造株式会社にて日本生物工学会関西支部主催の第104回醗酵学懇話会が開催されました。当日は学生10名を含むおよそ50名の方にご参加いただきました。この場をお借りして会場を快くご提供いただいた辰馬本家酒造株式会社の皆様、演者の先生方、参加者の皆様、ならびに、関係者各位に御礼申し上げます。

講演では、まず、甲南大学フロンティアサイエンス学部先端生命工学研究所の三好大輔先生に「細胞内外で機能する核酸分子の設計開発」という演題でご講演いただきました。細胞内で生体分子が高濃度に存在する「分子クラウディング状態」について解説していただき、その中における生体高分子の振る舞いを解明する研究についてご紹介いただきました。特に、核酸の構造や安定性に及ぼす分子クラウディングの影響に関する最新の知見は大変興味深く、細胞内環境に応答してスイッチングするバイオ素子の開発についての話題もご提供いただきました。

次に、辰馬本家酒造株式会社の小川義明先生に「灘酒プロジェクトの取組みについて」という演題でご講演いただきました。ご講演では、西宮から三宮に広がる灘五郷におけるお酒造りの歴史や技術、「灘の生一本」へのこだわりを大変分かりやすくご紹介いただきました。また、日本酒の消費を拡げるための取組みやその中での灘酒研究会の活動のご紹介では、酒質審査委員会の評価の流れを解説いただき、日頃聞く機会のない開発の様子を垣間見ることができました。本講演を通して、聴講者の日本酒への親しみが益々深まったのではないかと思います。

その後、工場見学をさせていただき、精米からボトリングにいたるまでの各工程をととても分かりやすくご解説いただきました。歴史ある酒蔵の生産現場を見学することで、酒造りの繊細さや面白さを、参加者一同改めて実感したことと思います。締めくくりの懇親会では、灘酒プロジェクトで開発した灘の生一本を特別に振る舞っていただき、いつものように賑やかな交流の場となりました。本懇話会を世代間あるいは産学間での活発な議論の場としてご活用いただけたのであれば、主催者冥利につきます。次回、第105回醗酵学懇話会は8月を予定しております。多数のご参加をお待ち申し上げます。

(関西支部庶務幹事 蓮沼 誠久)



甲南大学
三好大輔先生



辰馬本家酒造株式会社
小川義明先生



講演会の会場風景